

SG550XG および SG350XG スイッチの静的な番号または手動ユニット ID 割り当て

目次

[目的](#)

[適当なデバイス](#)

[\[Software Version\]](#)

[静的な番号または手動ユニット ID 割り当て](#)

[初期設定](#)

[ユニット ID 割り当ての修正](#)

[結論](#)

[目的](#)

スタックトポロジを設定して、スタックの各ユニット後ユニークな ID は手動または自動で割り当てられました。自動 ID 割り当ての情報は、[自動番号技術情報](#)を参照して下さい。

この資料の目標は手動で SG350XG または SG550XG シリーズ スイッチ用のスタック ユニット ID を設定する方法を示すことです。静的な番号の完全なデモに関しては、[下記のようにビデオ](#)を表示して下さい:

[適当なデバイス](#)

- SG350XG
- SG550XG

[\[Software Version\]](#)

- v2.1.0.46

[静的な番号または手動ユニット ID 割り当て](#)

静的な番号を使うと、手動で各デバイスの単位 ID をできま、最初のマスターを定義、バックアップ判別するようにあなたおよびスレーブ ユニットがします。

初期設定

このデモに関しては、チェーントポロジの 4 つの SG550XG スイッチを接続します。チェーントポロジを設定する方法の詳細情報に関してはリングおよびチェーントポロジを参照して下さい。

ステップ 1: 物理的にチェーントポロジのデバイスを接続したら、各スイッチのための Web コンフィギュレーションユーティリティに記録し、スタックポートを適切に設定する *Administration* > スタック管理にナビゲートして下さい。

呼び出します。リセットドロップダウンリストの後のユニット ID では、ユニークに各スイッチにユニット ID を割り当てるために 1 から 8 まで整数を選択して下さい。

注: 1 から機能スタックのためのスタックマスターを指定するスイッチの 1 つのユニット ID を割り当てる必要があります。

ステップ 3. 『Apply』 をクリックし、各スイッチのための変更を保存するためにリポートして下さい。確認ウィンドウは続けることを望むかどうか尋ねることを開きます。『OK』 をクリックすればデバイスはリポートします。

注: 変更が応用および各デバイスリセットだった後、によって各スイッチのスタック ID LED インジケータの検知正常な ID 割り当てを観察できます。大きい ID をより 4 割り当てた場合、複数の LED インジケータはつき、合計はスイッチの単位 ID を表示します。

ユニット ID 割り当ての修正

ステップ 1: 結局スイッチはリポートすることを終わり、スタックになり、スタックマスターの Web コンフィギュレーションユーティリティに記録し、*Administration* > スタック管理にナビゲートします。

スタックトポロジビューセクションは現在のスタックトポロジおよび静的な番号設定を示します。各々の個々のスイッチを選択し、ユニット ID を編集できます。

ステップ 2 (オプションの)。修正したいと思うスイッチを選択して下さい。リセットドロップダウンリストの後のユニット ID では、スイッチにユニット ID として割り当てるために新しい整数を選択して下さい。

注: 1 つのスイッチの単位 ID を変更することは重複した番号を避けるためにスタックの別のスイッチの単位 ID の変更を必要とするかもしれません。

ステップ 3 (オプションの)。『Apply』 をクリックし、静的な番号設定に行なった変更を保存するためにリポートして下さい。更新番号およびスタック設定はデバイスリセットの後でスタック管理ページに書かれています。

結論

静的な番号は各スイッチのためのユニット ID を選択することを許可によってスタックの設定の制御を与えます。その結果、容易にスタックトポロジを修正し、スタックのマスター、バックアップおよびスレーブはどのユニットであるか指定できます。スタックを物理的に設定した後、各

ユニットのスタック 管理 ページにアクセスし、ユニークなユニット ID ナンバーを割り当てることができました。